

トップコミットメント

「めざす未来～ありたい姿～」の実現に向けて、 「次の一步」を積み重ねていきます

代表取締役社長兼執行役員 真鍋 精志



はじめに

JR西日本グループは、2005年4月25日に福知山線列車事故を惹き起こした責任と重大性を重く受け止め、安全で安心・信頼していただける鉄道を築き上げることに、グループを挙げて役員・社員が一丸となって取り組んでいます。

一方、本格的な人口減少社会の到来や地域間格差の拡大、自然災害の激甚化、ICT(情報通信技術)の進歩、LCC*1をはじめとする競合との競争激化など、当社グループを取り巻く環境は急速に変化しています。こうしたなかで企業として持続的に成長していくためには、現在の延長線上で物事を考えるのではなく、将来に視点を置き、そこから現在を見たときのギャップを改善していかなければなりません。

「中期経営計画」に込めた思い

このような認識のもと、2013年4月、「中期経営計画」とその中核をなす「安全考動計画」をスタートさせました。この「中期経営計画」では、「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」を「経営の3本柱」として、引き続き経営の最重要課題と位置づけたうえで、新たに「めざす未来～ありたい姿～」を掲げました。

当社グループの「ありたい姿」は、①鉄道を社会基盤として持続的に運営するという「私たちの使命」を果たし、安全で豊かな社会づくりに貢献すること、そして、②地域とともに歩む「地域共生企業」として地域の活性化に貢献することです。

その実現に向け、「安全」「CS」「技術」の「3つの基本戦略」と、「新幹線」「近畿エリア」「西日本各エリア」「事業創造」の「4つの事業戦略」を重点戦略として、グループ一体となって推進しています。

改めて肝に銘じた「使命」

2013年度は「中期経営計画」の初年度として、課題はあるものの一定の手応えのあるスタートを切ることができました。何よりも大事なテーマである安全については、鉄道運転事故や当社に起因する輸送障害は減少傾向にあります。しかしながら、「死亡に至る鉄道労災ゼロ」の目標を掲げたにもかかわらず、協力会社の作業員がお亡くなりになる労災を発生させてしまい、目標達成に向けた課題の重さを再認識しました。

一方、2013年度は4月の淡路島地震をはじめ自然災害が多発した年でもありました。夏の集中豪雨では山口と島根で大きな被害が発生し、当社でも山陰線や山口線、三江線で橋脚が流されるなど甚大な被害を受けました。2014年度に入ってから福知山や広島などで多くの方が犠牲となる痛ましい豪雨災害が発生するなど、自然災害は年々激甚化しており、ソフト・ハードの両面から対策を講じていかなければならないと考えています。

不通となっていた各線区の運転再開に際しては地元の皆様から大変な歓迎をいただき、鉄道に対する地域の期待と社会的な「使命」の大きさを改めて肝に銘じました。私たちはその「使命」を果たし続けるため、「安全」と「CS」、そしてそれらを支える「技術」にこだわっていききたいと思います。



全線運転再開した山口線で地元の皆様がSL「やまぐち」号をお出迎え

用語解説 *1 LCC(Low Cost Carrier): 効率的な運営により低価格の運賃で運航サービスを提供する航空会社

「地域共生企業」となるために

2015年3月には、北陸新幹線金沢開業を迎えます。安全で信頼される輸送サービスの提供に向けて万全の準備をするとともに、東京から北陸に加えて、関西から北陸、さらには長野や新潟といった新たな地域間の交流を生み出していきたいと考えています。合わせて山陽新幹線の安全性・信頼性をさらに高めることにより、お客様から選ばれるサービスの提供とネットワークの充実を図ります。

また、近畿エリアにおいては、線区価値を向上させ、エリアの価値を磨くという事業戦略に本格的に取り組みます。新たなご利用誘発につながる新しい価値の創出に向け、地域との連携を深め、大阪環状線をより一層「行ってみたい」「乗ってみたい」線区に変える取り組みも進めています。西日本各エリアにおいても、各エリアの強みを活かし地域が元気になるような取り組みを進めていくとともに、地域交通の置かれた現状や将来の姿を地域の皆様と共有し、次世代に向けた解決をめざしていきます。

合わせて、「駅ナカ」の活用など生活関連サービス事業の拡大や、新たな事業分野の開拓・育成にも積極的にチャレンジするなど事業創造の芽を伸ばし、地域の皆様の快適な暮らしの実現をサポートできるよう取り組んでいきます。

地域が活性化することは、人が集まり、人が動くことにつながります。人口減少が避けられないなかで、地域と一緒に活性化に努めていかなければ、当社グループの発展はありえません。2017年春の運行開始を予定している新たな寝台列車の成功に向けても地域との連携が不可欠であり、地域と当社グループが一体となって、その地域ならではの最高のおもてなしを提供したいと考えています。

JR西日本グループのCSR

当社グループの事業は、お客様、社会、株主、取引先の皆様、そして社員といった多くのステークホルダーに価値を提供し、共有することで成り立っています。したがって、事業を持続的に発展させていくためには、安全やCSなどのレベル向上によりステークホルダーの皆様へ提供する価値を、将来にわたり高め続けていく必要があります。

そのためには、あらゆる職場で働く社員が想像力を働かせながらお客様や社会の期待にどう応えるか考え、自らの役割を理解したうえで仲間と連携し、手応えを感じながら課題を解決していくことが大切であり、それが次への挑戦の原動力となります。

ステークホルダーの皆様との対話を重ねながら、こうしたプロセスを繰り返していくことが、「中期経営計画」で掲げた目標の達成、ひいては企業理念の実現につながり、この一連の流れこそが当社グループのCSRの実践に他ならないと考えています。

「次の一歩へ。地域と共に。」

私たちの経営の原点は、第一線の一つひとつの仕事にあります。グループの4万5千人を超える役員・社員一人ひとりがそのレベルアップに取り組み、それらを「チーム」として結集することにより、地域の皆様とともに歩みながら、中長期的な企業価値の向上をめざします。

「一人の百歩」ではなく、「百人の一歩」。そんな精神で「次の一歩」を積み重ね、「めざす未来～ありたい姿～」への道を切り拓いていきます。



北陸新幹線W7系入港歓迎セレモニーでの地元幼稚園児によるバルーンリリース